

# 平成 17 年度 大自然塾「鳩ノ巣フィールド」活動計画

鳩ノ巣連絡協議会

## [はじめに - 活動のための現状認識 - ]

平成 16 年度の活動報告書(別紙)を受けた多摩の森・大自然塾「鳩ノ巣フィールド」活動の課題を整理すると以下ようになる。

### 運営管理面

定例イベント運営体制の強化 指導者層の充実化

参加ボランティアのスタッフへの取り込み

「鳩ノ巣連絡協議会」の体制強化 関連団体以外からの出席者の取り込み

### フィールド活動面

「フィールド」への取組み

定例イベントだけでは覚束ない作業対応 作業部会の立ち上げ

参加ボランティアの固定&継続化及び拡大化

フィールド案内ノウハウの蓄積と共有化 新案内人の養成

現フィールドの境界確定

作業用具の自前化 助成金対応方法

新たなフィールドの獲得

シカ食害対策の推進

蜂対策を含めた安全管理体制の強化

### 調査・データ収集面

調査活動対策 労力とノウハウ不足

調査情報の活用

### 地元住民とのさらなる交流

山づくりは長期の視点が必要であるが、上記課題を前提として、17 年度については以下の計画案を提出する。

## [鳩ノ巣連絡協議会の体制]

関連団体:引き続き、樹恩ネットワーク、森林インストラクター東京会の2団体でスタートするが、NPO 法人森づくりフォーラムとの連携のもとで、幅広く他団体および個人参加ボランティアの参加協力を求めていく。

運営方法:平成 16 年度に同じ。座長と事務局を置き、月1回の定例会における協議決定により運営する。なお、座長と事務局は関連団体者から任命するが、定例会参加者はこれにこだわらない。

出席者:関連 2 団体における現メンバー以外の出席者拡大に努める他、他団体・個人参加ボランティアの取り込みを図る。

## [長期ビジョン・フィールドのあるべき姿・活動のあるべき姿・フィールドの将来像]

平成 16 年度に同じ。 \* 2003.5.12 作成

### 長期ビジョン

委託された現在の鳩ノ巣・棚沢地区の森を「豊かな美しい森 = 多様性のある森」として創出し、奥多摩町の活性化に寄与することで、東京都「大自然塾」活動のモデル・フィールドとする。

### フィールドのあるべき姿

“多様性”をキーワードとし、将来の森の“姿”として以下を目指すものとする。

生物の多様性

資源の多様性

森林形態の多様性

### 活動のあるべき姿

“多様性”をキーワードとし、市民ボランティアを含む多くの協力者とともに、以下を活動のあるべき“姿”として展開する。

活動メニューの多様性

森林施業の多様性

参加者の多様性

### フィールドの現状認識と将来像

\* 別紙資料 A「鳩ノ巣フィールド森林計画」参照。

## [平成 17 年度活動計画]

### 1. 活動方針

「運営体制の強化と新たなフィールド展開のための基盤づくり」

### 2. 活動の基本内容

- 2-1 月1回の「多摩の森・大自然塾」イベントの運営を柱とし、長期ビジョンのもとでの活動計画を実行する。
- 2-2 月1回の「鳩ノ巣連絡協議会」を開催し、定例のイベント運営の内容及び中長期ビジョンとの整合を図る。
- 2-3 関連2団体からの新たな人材登用を含め、他団体及び個人参加ボランティアとの交流を促進し、イベント運営体制の強化を図る。
- 2-4 関連2団体は定例イベントとは別に、自主活動日を設け、目標とする作業計画の達成に努める。
- 2-5 地元住民との各種活動を通じた交流を促進するとともに、地元における林業文化の継承や新たな林業事業化の方向を共に考える基盤を作る。

### 3. 鳩ノ巣連絡協議会としての重点実施項目

#### 3.1 長期ビジョン実現に向けた運営体制の構築

樹恩ネットワーク、森林インストラクター東京会の2団体を核にした運営スタッフ及びリーダーを増強するとともに、他団体及び個人参加ボランティアにも呼びかけて協議会の運営体制を強化する。

具体的には

関連2団体会員のメンバー拡大

「鳩ノ巣つうしん」他を活用した呼びかけによるメンバー勧誘

#### 3.2 各フィールドの将来像に基づいた作業計画の立案と実施

	現 在	将来の姿	平成17年度計画
フィールド <sup>*</sup>	2000年に皆伐した跡地	落葉広葉樹林	下刈り 観察と記録
フィールド <sup>*</sup>	1999年に皆伐した跡地。 2000年3月に中間部にスギ・ヒノキを植樹	上部：落葉広葉樹 中間部：スギ・ヒノキの針葉樹 下部：花の咲く木を植樹	下刈り シカ害調査と対策 観察と記録
フィールド <sup>*</sup>	1994年に皆伐した後地	天然更新の2次林 林班区分して針葉・落葉のモザイク林を形成	道づくり 一部植樹と除伐 観察と記録
フィールド <sup>*</sup>	2002年に皆伐。 2003年3月に落葉広葉樹を植林	落葉樹林	下刈り 観察と記録 植樹
フィールド（1）	25年生のヒノキ林	美しく手入れのされたヒノキ林	保育作業 観察と記録
フィールド（2）	スギ・ヒノキ林	美しく手入れのされた針葉樹林	保育作業 観察と記録

\* 詳細は別紙資料B「平成17年度フィールド別作業計画」参照。

#### 3-3 「フィールド」への取組み

##### 基本の考え方

「アマチュアの森林ボランティアが行う森づくり」を掲げ、すべての多様性と継続性を求める。

目標の設定を短期計画(5年)、中期計画(20~30年)、長期計画(50年以上)に定める。

山林所有者との合意を得ながら、関わる人たちの意識、手法の共有化などの合意形成を図る。

常に調査を行い管理し、その結果を記録する。

ゾーニングは植生区分、境界(道、尾根、沢など)区分など、人為的区分の手法で検討し、小林班をパッチ状に設ける。

\* 詳細は別紙資料 C「フィールド 森林デザイン・施業計画」を参照。

### 3-4 「作業部会」による活動

定例イベントでは危険を伴い、またさらなる森づくりのために不可欠な作業を推進するとともに、将来に向けた「人づくり・後継者づくり」のため、連絡協議会として実施する。

活動日：2005.4月～2006.3月 毎月1回+追加不特定日

作業内容： 風雪害木の処理  
崩落個所の回収・防護  
放置残材の整理  
高所の枝打ち作業 他

\* 別紙資料 D 作業部会「作業計画表」を参照。

### 3 5 作業道具の自前提供

国土緑推等の助成金獲得方法を研究し、作業道具の充実化を図る。

### 3-6 フィールド境界の確定と図面化

16年度に引き続き、森づくりフォーラムに協力し、境界確定に努力する。

### 3-7 植生・資源調査の継続実施とデータ管理化

調査・データ管理の精度をあげるとともに、有用な蓄積を試みる。

### 3-8 新たな林地(放置林)の獲得

地元の協力を得て、枝打ち・間伐等の作業可能な林地の獲得に努める。

## 4. イベントを通じた重点実施項目

### 4-1 参加ボランティアの固定&継続化及び拡大化

具体的には

常なる参加呼びかけ

「鳩ノ巣つうしん」の活用

### 4-2 地元住民との共同作業活動の推進

スタッフ・参加ボランティアと地元住民との共同作業により、イベントを盛り上げる。

#### 4-3 他団体会員及び個人活動者を含むリーダー・スタッフ体制の構築 具体的には

イベント終了後の懇談会の開催(1, 2回の試み)  
「鳩ノ巣クラブ」の展開に努める

#### 4-4 フィールド案内ノウハウの蓄積と共有化

「東京の森の再生」を目標とする「大自然塾」活動の意義を含め、「中長期ビジョン」を前提とした「フィールド案内ノウハウ」をリーダー・スタッフ間で共有し、新案内人登用も意図しつつ、参加ボランティア及び地元住民に提供し続ける。

#### 4-5 シカ食害対策の効果把握追跡調査の実施

16年度に実施したシカ食害対策(ネット張り、棒ネット、ホダ木囲み、竹柵囲み)の効果把握の調査計画を立案・実施する。

#### 4-6 蜂対策を含めた安全管理体制の強化

### 5. フィールド別作業活動計画とスケジュール案

フィールド毎の月別作業計画のもとで、イベント展開を図るとともに、ボランティア指導のための「技術講座」を開講する。

\* 詳細は別紙資料 B「平成 17 年度フィールド別作業計画」を参照。

#### [計画達成上の留意点]

##### 1. 森づくりフォーラムへの要望

他団体及び東京都(環境局)とのコミュニケーション強化の推進

##### 2. 東京都環境局への要望

「大自然塾」事業方針の明確化  
都民に対する広報活動の強化

以上 平成 17 年 5 月 9 日

作成: 鳩ノ巣連絡協議会座長 岡田 誓 (森林インストラクター東京会)